■岩槻区域の位置付け

岩槻区域は、古くから城下町として、また日光御成道の宿場町として発展し、歴史的・文化的な雰囲気と緑の多い市街地を有しており、江戸時代から続く地場産業の「人形づくり」は広く全国に知られています。また、その周囲には、台地斜面部に形成された環状の緑地帯、綾瀬川、元荒川などの水辺空間や農地が広がるなど、豊かな水と緑の空間に恵まれています。

岩槻区域においては、これら地域固有の資源を生かし、交流の活性化を通じて拠点性の向上を図りながら、自然と調和した生活の場としての魅力を向上させ、新市の都市づくりにおいて次の役割を果たすものとします。

▼多核連携型の都市構造における拠点機能

○地下鉄7号線延伸の促進や東北自動車道の活用をはじめとする道路・交通機能の向上、交流の活性化を通じた都市機能の充実など、岩槻駅周辺地区の拠点性の向上を図り、都心・副都心との連携を深めて、新市全体としてのコンパクトな都市づくりを目指した多核連携型の都市構造における拠点としての役割を担っていくこと。

▼特色ある新しい文化の創出と交流の活性化

○地域固有の歴史・文化や伝統的な「人形づくり」を生かしながら、特色ある新しい地域の文化を形成していくこと。

○盆栽村などとの連携を進めながら、地域固有の歴史的な文化を広く情報発信して、新市における多様で広域的な交流の拠点を形成していくこと。

▼恵まれた水と緑を生かした居住空間の提供

○台地上に形成された市街地を環状に取り囲む斜面緑地をはじめとする緑の空間、綾瀬川や元荒川の水辺空間など、周辺の自然環境と調和し、水と緑に恵まれた居住空間を提供していくこと。

○美園地区と連携した国際アメニティタウンの形成、地下鉄7号線沿線の計画的な整備などを進めていくこと。

■都市構造の基本方針

新市の都市構造としては、自然環境の保全・再生や既成の市街地の再構築を基本とするコンパクトな都市づくりによって、多核連携型の都市構造の実現を目指すことを基本とします。

以下、「都市軸」、「土地利用」、「拠点」の観点から、その方向性を示します。

□都市軸の構成と機能

都市構造を首都圏の全体的な都市構造の中で捉え、新市を貫く首都圏の放射方向の軸を「中央都市軸」、環状方向の軸を「交流・連携軸」と位置付けます。

□土地利用ゾーンの構成

【都市ゾーン】

都市ゾーンにおいては、市街地の再生を図りながら高次都市機能の集積を進めるとともに、都市機能の有機的な連携を強化し、魅力ある広域交流拠点の形成を目指します。

【市街地ゾーン】

市街地ゾーンにおいては、それぞれの地区の特性を踏まえながら土地利用の再編の誘導、生活基盤の整備や緑の空間の創出などにより、ゆとりある良好な住環境の創出を目指すとともに、防災面や環境面に配慮した利便性の高い市街地の形成を進めます。

【緑地ゾーン】

緑地ゾーンにおいては、自然環境の保全と農業の振興を基調としながら、水と緑のネットワークの骨格の形成、また、市民生活にやすらぎや潤いを提供する空間として、その利用・創造を図ります。